

お知らせ

INFORMATION

No.2023-18

2023年6月

病体生理研究所

新規受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託項目】

- ◆ 遊離メタネフリン 2分画 [16253] …検査実施施設 S
- ◆ ガストリン [38220] …検査実施施設 S
- ◆ 遊離 HCG-β (HCG-β サブユニット) [16448] …検査実施施設 S

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2023年7月3日（月）受付分より

【新規項目情報】

項目名称	遊離メタネフリン 2分画
コード	16253
検体材料	EDTA-2Na 血漿 1.5mL
保存安定性	絶凍
検査方法	ELISA
基準値・単位	遊離メタネフリン 130 以下 pg/mL 遊離ノルメタネフリン 506 以下 pg/mL 基準値は空腹時に仰臥位にて20分以上安静にしたあとに採血した検体を用いて設定されています。
所要日数	6～14 日
実施料 (区分)	320 点 (D008 51 内分泌包括項目)
判定区分	生化Ⅱ
備考	測定値が上昇する恐れがあるため、空腹時に仰臥位にて 20 分間安静にしたあとに採血してください。 採血後、30 分以内に血漿分離してください。 溶血・乳びでのご依頼は避けてください。

本検査は、日本内分泌学会「悪性褐色細胞腫の実態調査と診断指針の作成」委員会編、褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン 2018 においてスクリーニングと機能検査に加えられ、2019 年に保険適用となりました。

従来の尿中メタネフリン分画と比較しても、感度・特異度について同等以上の性能を有しており、1 回の採血で検査が可能です。特に 24 時間蓄尿のために 1 泊入院の必要がなくなり、外来での検査が容易になることが期待できます。褐色細胞腫の診断の補助としてご活用下さい。

項目名称	ガストリン
コード	38220
検体材料	血清 0.5 mL
保存安定性	絶凍(21日)
検査方法	RIA PEG 法
基準値・単位	11.9~46.9 pmol/L
所要日数	3~8日
実施料 (区分)	101点 (D008 9)
判定区分	生化II
備考	安静、空腹時(10時間以上空ける)に採血してください。 血清分離後、速やかに凍結保存してください。

ガストリンは、胃幽門粘膜および十二指腸粘膜に存在するG細胞で産生される分子量2,096の直鎖ペプチドで、17個のアミノ酸から構成される消化管ホルモンです。主に腎臓で代謝され尿中にはほとんど排泄されませんが、生理活性のないN端部分ペプチドは、腎臓で代謝されず尿中に排泄されます。

血中ガストリン濃度は、胃酸分泌機能の背景因子を調べる検査の一つであり、胃酸分泌機能の測定と併せて行われます。特に、Zollinger-Ellison症候群(ガストリノーマ)を代表とするガストリン産生腫瘍をはじめとする種々の疾患で高値を示し、消化器異常の鑑別や病態の把握にも用いられます。

体外診断用医薬品の承認、及び保険適用されました試薬での検査受託を開始いたします。

参考文献：花石 智子，他：医学と薬学 80 (5)：513~520, 2023. (測定方法参考文献)

河本 泉，他：日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 33 (2)：97~100, 2016. (臨床的意義参考文献)

項目名称	遊離 HCG-β (HCG-β サブユニット)
コード	16448
検体材料	血清 0.5 mL
保存安定性	冷蔵
検査方法	CLIA 法
基準値・単位	1.00 未満 ng/mL
所要日数	3~6 日
実施料 (区分)	132 点 (D008 19 内分泌包括項目)
判定区分	生化Ⅱ

2023 年 1 月より試薬製造上の問題により一時受託中止となっておりますが、HCG-β の測定を目的とした新たな試薬が発売となりましたため、新試薬を用いて新たに受託を開始いたします。

HCG は、胎盤から分泌される性腺刺激ホルモンで、分子量約 38,000 の糖蛋白です。α と β のサブユニットからなり、β サブユニットは HCG 特異性が示されます。意義として妊娠の早期確認、流産、子宮外妊娠および絨毛性疾患の診断、治療効果および寛解の判定などの指標に有用です。

参考文献 : Cole LA : Clinical Chemistry43 (12) :2233~2243, 1997. (測定法文献)
伊吹 令人, 他:日本臨牀 47 (増刊号) :1279~1285, 1989. (臨床意義文献)

以上